

第3次鳥羽市教育ビジョン（案）に係るパブリックコメント実施結果

No.	項	意見	市の考え方及び対応
1	全体	<p>構成全般について</p> <p>まず1つ目に、第2次教育ビジョンでは「鳥羽市教育大綱」に続いて第1章「計画の基本事項」となっていたところを第3次では、第1章「計画の基本事項」、第2章「本市を取り巻く状況」、第3章「計画の基本方針」とした。状況の分析に基づいて計画の基本方針が示される流れになっており、本来、この順序であるべきと思うので共感できます。</p> <p>続いて2つ目です。基本方針Ⅰ～基本方針Ⅵの順についてですが、基本方針Ⅲは、基本方針Ⅰに続くほうがよいのではないのでしょうか。基本方針Ⅰ「一人ひとりを大切にしたい学び」の内容は、基本方針Ⅲ「豊かな心と健やかな体の育成」の内容である自他の人権尊重、健康増進や体力向上と関連が深く、また、人権尊重を基盤に、基本方針Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵが進められるべきと考えます。基本方針Ⅱと基本方針Ⅳについても関連性が深いので、全体として基本方針Ⅱと基本方針Ⅲの順序を入れ替えるべきかと思います。（「鳥羽ならではの教育」を強調したい考えがあるのかとも感じますが・・・）</p>	<p>ご指摘のとおり、基本方針ⅠとⅢは共通性が高く、教育の基盤となる重要な考え方であると認識しています。</p> <p>一方、教育方針Ⅱは、本市の特色や地域性を踏まえた施策を位置付けるものであり、「鳥羽ならではの教育」を明確に示す観点から、基本方針Ⅰに続く構成としています。</p> <p>なお、各基本方針は相互に関連し合うものであり、順序に関わらず、総合的かつ一体的に推進していきます。</p>
2	全体	<p>基本的な理念そのものは美しくまとめられ、また2010年から国のシンクタンク、大学などとともにつけられてきた海洋教育が、基本計画に盛り込まれていることは携わってきた身としてはありがたい限りです。取り組みを継続されて来られた、現場の先生方、現場と国などとのカウンターパートや橋渡し役として関わって来られた教育委員会の皆さまに敬意を表するとともに感謝申し上げる次第です。その上で、より良い教育を実践するためには、大人たちが将来に責任を持つことについては、まだまだ及ばぬ面があるかとも感じられます。特に個々の取り組みを評価する枠組みや制度、実施体制が依然として欠けており、掲げられた理念や計画（KGI）が遂行されているか？達成できそうか？といったことは、特に教育効果などについてできる限りKPIを設定して5ヵ年の間に振り返り軌道修正すべきではないでしょうか。ご検討くださいませ。</p>	<p>各施策の「めざす姿（KGI）」を実現するための過程を計測する中間指標として成果指標（KPI）を定めています。</p> <p>また、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、毎年実施する「教育委員会の事務に関する点検・評価」により各施策の進捗状況や取組の成果、課題を評価し、翌年度以降の施策展開に反映させることとしています。</p> <p>第5章「計画の推進」において、『点検・評価』を『教育委員会の事務に関する点検・評価』に修正します。</p>

第3次鳥羽市教育ビジョン（案）に係るパブリックコメント実施結果

No.	項	意見	市の考え方及び対応
3	P.16～26	<p>複式学級について</p> <p>P. 7において、「授業運営や学習指導に工夫が求められるなど、教育上の課題も存在する」と述べられています。 施策1～8においては複式学級に関連する内容も含まれてはいますが、「複式学級の教育上の課題」については、一言も述べられていません。本市においては複式学級がさらに増加する状況にあることから、複式学級の教育課題に特化した施策が必要かと思えます。</p>	<p>ご指摘のとおり、複式学級の教育上の課題については重要であると考えており、施策1「確かな学力の育成と学びの質の向上」の「現状と課題」と「主な取組」へ記載しておりますが、「主な取組」の記載内容について、『複式学級では、異学年がともに学ぶ中で生まれる協働学習を活かし、社会性や思いやりの育成につながる取組を進めます。また、少人数の特性を活かしたきめ細かな指導を行うとともに、複式担当教員同士のオンライン情報交換を行い、指導方法や教材工夫の共有によって指導の質を高めます。』に修正します。</p>
4	P.18～19	<p>「施策2情報リテラシーの育成とICT教育の推進について」について、情報の適切活用するには、情報収集能力と取捨選択能力、それら駆使するための様々な知識が必要と感じる。また、子どもがAIのみで調べる姿を多く見かける。大人でも同様にインターネットに流れている誤情報に惑わされている人が多い中それを適切に先生が教えることができ、AIの使う長所短所、前述の能力らを向上できる方法についての具体的な案が欲しい。</p>	<p>ご指摘のとおり、情報リテラシー育成には取捨選択力やAIの特性理解が重要であり、誤情報対策も課題です。</p> <p>施策2「情報リテラシーの育成とICT教育の推進」の主な取組「②情報活用能力の育成」、「③教職員のICT活用指導力の向上」で示すとおり、教員の指導力向上や適切な学習環境の整備を進め、計画を着実に推進します。</p>
5	P.18～19	<p>情報リテラシーと金融リテラシーは密接に関係している。こどもNISA制度が始まるにもかかわらずなにも触れられていない。計画を策定する側のリテラシーが低いことが露呈しているのではないかと？金融（フィナンシャル）と情報技術（テクノロジー）を併せたフィンテックリテラシーを高める教育が正解なのではないかと？また、話が逸れるが、目線が違えば、立場が違えば、今まで問題のなかった事が問題として現れるのは、あたりまえの事であり、そのような批判的思考が現代社会において求められている事を認識してほしい。</p>	<p>教育ビジョンにおいて、個別の項目としては示していませんが、学習指導要領に基づき、例えば中学校の「社会科公民的分野」等では金融や年金制度、経済の仕組みを扱うほか、小学校でも発達段階に応じて関連する内容を取り扱っています。</p> <p>ご指摘の情報活用や金融理解をはじめとして、社会の状況変化に応じた、横断的な教育に取り組んでいきます。</p>

第3次鳥羽市教育ビジョン（案）に係るパブリックコメント実施結果

No.	項	意見	市の考え方及び対応
6	P.20～21	<p>施策4の成果指標について「家庭や地域と連携した防災の取組」の現状値は一となっている。加茂中学校区で4年間取り組んでいる「避難所運営訓練」、それに伴う「地区別危険箇所点検」などは、地域自治会やPTAと連携し、生徒が地域の一員として協力できる力を養っている。令和7年度は鳥羽市教委指定の研究発表に向けた取組もされたが、指標とするところは達成できていないという捉えでしょうか。他の校区でも避難訓練などを地域自治会と連携して行っているところもありますが。</p>	<p>加茂中学校区での避難所運営訓練や危険箇所点検など、地域と連携した取組は重要であり、成果として評価しています。</p> <p>成果指標の項目を『地域と連携した防災の取組を実施している学校の割合』に修正し、注釈を『学校運営協議会や自主防災組織、自治会等と連携した防災訓練などの取組を学年単位以上で実施している鳥羽市内小中学校の割合（鳥羽市教育委員会調べ）』に、現状値（令和6年度）を『-』から『54.5%』に修正します。</p>
7	P.20～21	<p>災害に強い心と知識を育てる防災・減災教育について、町を歩き子供たちが、危険な箇所を発見しレポートに纏めて発表するなど、関心する取り組みが多い。しかし、その指摘した問題点を、大人がどう捉え、どう反映し、どう改善したのか？逆に大人が子供達に発表する機会も必要ではないか？</p>	<p>子どもの危険箇所の発見・発表に加え、社会福祉協議会の「まちとーく」などで大人と子どもが意見を交わす場も既に活用しています。</p> <p>防災・減災教育では、こうした双方向の意見交換の機会を今後も創出・充実させるとともに、家庭・地域や市防災危機管理室とも連携して、子どもの気づきを地域の取組に生かすよう努めます。</p>
8	P.24～25	<p>施策7の現状と課題の記載内容について、「とばっ子学習や島っ子ガイド、ワカメ養殖体験学習など～」とありますが、加茂小学校の「稲作体験学習」は1年間を通じ地域に根差した体験的な学習が、長年にわたり継続されてきています。農村地区における一例として、各校独自に取り組んでいる「島っ子ガイド」、「ワカメ養殖体験学習」と並列的に記載していただきたいと考えます。</p>	<p>ご指摘の加茂小学校の「稲作体験学習」は地域に根差した取組であり、現状と課題の『とばっ子学習や島っ子ガイド、わかめ養殖体験学習など』を『島っ子ガイドや稲作体験学習、わかめ養殖体験学習など』に修正します。</p>

第3次鳥羽市教育ビジョン（案）に係るパブリックコメント実施結果

No.	項	意見	市の考え方及び対応
9	P.24～25 P.30～31	<p>「施策11郷土愛を育むふるさと学習の推進」について、「施策7活力ある学校づくり」との内容も含め意見したい。鳥羽恐竜研究振興会では鳥羽小中校長会様に加入していただいているが、年間通して利用校が少ないように感じる。特に三重県下における鳥羽市の地質群やそれに伴う大型草食恐竜の発見は日本でも稀有な例として挙げられ研究者が多く訪ねている場所となっている。また、鳥羽郷土史会では鳥羽の郷土に関する研究や発表を行っているが学校側からのアプローチも見られない。また、ガイドを行っている学校があれば鳥羽ガイドボランティアの会と連携したい。疑問として?総合の時間以外にも、例えば九鬼ならば社会、恐竜なら理科の時間のように増やすことはできないのか?学習分野として学校別に詳細に教えてほしい。?アウトプットの方法として主な取り組みで挙げているが、学校別にどんな方法でしているのか、また一般人はそれらを見ることができると教えてほしい。</p>	<p>鳥羽竜は学術的価値が高く、地域の魅力を高める重要な資源であり、「とばっこ探偵団」でも紹介しています。</p> <p>各校では地域団体と連携し、工夫を凝らして郷土学習に取り組んでいます。限られた授業時数の中で、総合的な学習の時間や生活科だけでなく、社会や理科など各教科を横断的に関連付け、カリキュラムマネジメントを意識しながら計画的な学習を進めています。今後も地域資源を生かした学びを充実させ、郷土への理解と愛着を育む教育を推進します。</p>
10	P.27～28	<p>「施策9鳥羽から世界へつながる英語教育の推進」について、まず子どもが鳥羽を「国際的な観光文化都市」と認識しているかの指標が欲しい。認識できていない場合、そこを認識させれば鳥羽市において英語が話す必要性が出てくると感じる。コミュニケーション必須となる状況があれば必然と英語を話せると感じ、また発音などの問題においてはそもそも日本語と英語の母音子音などの違いでありそれを認識さえすれば発音などは大丈夫であると感じる。クルーズ船特にダイヤモンドプリンセス号などでは鳥羽市観光課、鳥羽商工会議所、鳥羽市観光協会などが主体としているのでそちらの連携をしているのかどうか、またガイドを子供ができるだけ知識や能力を有しているのか教えてほしい。</p>	<p>市観光商工課等の関連機関と連携し、クルーズ船受入等を契機とした英語活用の機会づくりを進めています。この取組は、ガイド活動を通して自分の考えを伝えようとする姿勢や対話を重ねる経験など、実践的なコミュニケーションの機会を確保し、国際的な観光文化都市としての理解促進や英語コミュニケーション能力の向上を図ることを主な目的として取り組んでいます。</p>

第3次鳥羽市教育ビジョン（案）に係るパブリックコメント実施結果

No.	項	意見	市の考え方及び対応
11	P.27～28	<p>英語教育について</p> <p>成果指標の英検3級相当以上60%についてですが、これは「英語教育実践状況調査（文科省）」の方針に準拠するものと記載されていますが、「鳥羽ならではの英語教育」の目指すものと一致するものではないと考えます。鳥羽ならではのガイドボランティア活動やオンライン交流学习等の実施回数や体験児童生徒の割合などを成果指標のとしてもよいかと思えます。また、英検3級以上60%は、英語についての学力の中位～上位層の生徒を対象にしたものであり、下位層のいわゆる英語を苦手とする生徒が含まれません。教育目標ではなく評価指標といえ、すべての子どもたちを対象とすべきかと思えます。</p>	<p>成果指標として英検3級以上60%を掲げていますが、英検のみを重視するものではありません。鳥羽ならではのガイド活動やオンライン国際交流など、実際に伝わる喜びを得るアウトプット体験を重視するとともに、その体験を深めるための語彙・表現などのインプット学習も大切にし、「もっと学びたい」という意欲につなげることで、すべての児童生徒の力を育む英語教育を推進します。</p>
12	P.28～29	<p>29ページの『SDG's』の件です。グローバルな視点で考えた時、どれだけ周回遅れですか？欧米からはじまり、時代は『ESG投資』で環境負荷と気候変動の影響を学び、さらに金融に及ぼす影響を学びます。教育者側の意識が低いのではないですか？パラダイムシフトを意識してほしいものです。鳥羽には豊かな観光資源や基幹産業、自然環境があります。それらを活かしたマーケティングを含めた経営戦略、金融教育を導入してはどうでしょうか？教育ビジョンの中にESG投資を含めた金融教育の項目が無いのは、時代遅れすぎます。子供達が年金受給世代になった時に公的年金制度が破綻している可能性を鑑み、iDeCoなど社会保障制度も学ぶべきです。お金を稼ぐ、貯める、守る、運用する大切さを身につけてほしいものです。</p>	<p>SDGsの視点にとどまらず、ESGや社会保障制度など、社会の変化に応じた金融教育等の重要性は認識しています。</p> <p>教育ビジョンにおいて、個別の項目としては示していませんが、学習指導要領に基づき、例えば中学校の「社会科公民的分野」等では金融や年金制度、経済の仕組みを扱うほか、小学校でも発達段階に応じて関連する内容を取り扱っています。</p> <p>また、鳥羽の産業や資源、環境を踏まえ、関連する学習内容を変更するなど、鳥羽の地域性を生かした学びも取り入れながら、社会の変化に応じた教育の充実に努めます。</p>
13	P.45～46	<p>「施策21多様な生涯学習の推進」について、疑問としては?旧鳥羽小学校の活用では鳥羽城跡や九鬼氏のみ展示になるのか？</p>	<p>鳥羽城跡という地理的条件から、鳥羽城や九鬼嘉隆に関する展示が中心になる想定ですが、それら以外の鳥羽の歴史文化や地域資源を紹介することが想定されることから、主な取組について、『鳥羽城跡や九鬼氏を学び対外的にも情報発信できる施設』を『鳥羽城跡や九鬼氏をはじめとして、鳥羽市の魅力を対外的にも情報発信できる施設』に修正します。</p>

第3次鳥羽市教育ビジョン（案）に係るパブリックコメント実施結果

No.	項	意見	市の考え方及び対応
14	P.45～50	<p>基本方針VIについて、P. 13にはその方針の要旨として「文化、芸術、スポーツ等の市民活動」、「部活動の地域展開」について記載されています。このことについて、まずひとつ目ですが、基本方針VIにかかる施策21～24には、「芸術」については一言も記述がありません。第2次教育ビジョンには、「感性を育むアートに親しむ創作機会や環境の創出」といった施策がありました。今回は関連した内容がありません。第3次教育ビジョンの施策24「誰もが生き生きとできるスポーツの推進」を「誰もが生き生きとできる文化、芸術、スポーツ活動の推進」に変更し、施策展開を図るべきです。教育大綱の基本理念にも「文化や芸術、スポーツ活動など本物に触れる豊かな体験を通して、知性・感性・理性を磨き～」とありますが、施策では、芸術（美術や音楽など）が無視されています。</p> <p>続いて2つ目です。部活動の地域展開についてですが、施策13の③で、部活動の地域展開について記載し、施策13の成果指標も部活動の地域展開となっていますが、基本方針VIの要旨の1つとして部活動の地域展開を記載したことから、施策24「誰もが生き生きとできる文化、芸術、スポーツ活動の推進」の内容とすべきであり、成果指標もここにあるべきかと思えます。加えて、部活動にはスポーツ活動だけでなく、文化、芸術活動もあります。鳥羽市の部活動の地域展開計画等に関わる他文書では、文化・芸術活動もていねいに扱われていました。加えて、成果指標にもスポーツだけに限定した「競技」といった単位の扱いがありますが、部活動全般の記載において見受けられるので、修正すべきです。</p>	<p>文化・芸術の振興は重要であると認識しています。ご指摘いただいた内容を踏まえ、施策21の名称を『多様な生涯学習の推進』から『多様な生涯学習や文化活動の推進』に修正します。</p> <p>また、主な取組「①生涯学習講座の推進」において、『多様なニーズに応じた生涯学習講座』を『文化や芸術など多様なニーズに応じた生涯学習講座』に修正します。</p> <p>中学校の部活動地域展開において、スポーツだけではなく文化・芸術活動も含まれるため、施策13「健康や体力の向上に視点を当てた教育」の主な取組「③中学校部活動の地域展開」において、『継続的にスポーツに親しむ機会』を『継続的にスポーツや文化芸術活動に親しむ機会』に、『地域展開の準備が整った競技』を『地域展開の準備が整った活動』に修正します。</p> <p>また、成果指標において項目『部活動地域展開の実施競技数』を『部活動地域展開の実施数』に、指標の単位を『競技』から『活動』に修正します。</p>

第3次鳥羽市教育ビジョン（案）に係るパブリックコメント実施結果

No.	項	意見	市の考え方及び対応
15	P.48	<p>「施策23鳥羽の文化財の保存・活用・継承」について④も含めて意見する。「現状と課題」において「市内には多様な歴史文化がありますが、あまり調査・研究が進んでいません」とある。前述した通り鳥羽郷土史会や鳥羽恐竜研究振興会は市内の様々な分野の研究しており、特に鳥羽郷土史会はそれらを学術的な研究ではないにしても書籍として残している。?教育委員会としてどの分野が調査・研究が進んでいないと認識しているのか??多種多様な文化があるのにも関わらず、旧鳥羽小学校を九鬼や鳥羽城跡の展示拠点のみとしていいのか??でそれ以外の展示検討しているなら、旧鳥羽小学校への地質や古生物、民俗の人文学、歴史などの分野の大学を誘致する気はあるのか? ?同施策23の「現状と課題」では「鳥羽の歴史や郷土ゆかりの人物などについて、紹介できるような人材が求められている」とありますが、鳥羽ガイドボランティアの会のガイドではゆかりの人物についての紹介やガイド少ない人数ながら行っております。ここでいう人材はこのような人材ではなく専門家なのでしょうか? また、それであれば大学誘致や博物館学芸員などの人材となりますが雇えますか?? 「主な取組」として「文化財の保存事業の推進」とありますが、賀多神社組み立て式能舞台や長尾オルガンなどの市文化財、また、文化財は旧法務局、鳥羽図書館、門野幾之進記念館、旧小浜プール横倉庫など低海拔地域にあります。これらを減災や防災の観点から移動すべきと考えますが教育委員会はどのように認識しているのでしょうか??同様の場所で「広報とば」や「YouTube」とあるが、研究を鳥羽市として、もしくは鳥羽市内の研究会として学術的な書式として書籍化することは考えていないのか? また、研究後の資料はデジタルアーカイブとして保存しないのか?</p>	<p>調査・研究について、民俗分野の研究は行われてきましたが、考古学をはじめとした歴史分野については、未充足だと考えており、今後の調査研究の進展が求められます。</p> <p>また、防災上の観点から各所にある資料を旧鳥羽小にできるだけ集約化できないか検討してきたいと考えております。</p> <p>鳥羽の歴史等を紹介できる人材については、学術的な人材という意味ではなく、昨今のクルーズ船の来航増などの状況を踏まえると、現状よりもっと多くの人材の育成が必要と考えています。</p> <p>文化財の保存については、施策23の主な取組「③文化財を紹介する動画と報告書の公開」において、祭礼行事のデジタルアーカイブ化と、過去に刊行した報告書等のアーカイブ化等を進めることを記述しております。</p>